

発表者紹介

(※発表者の所属は応募時の情報も含む)

■研究発表■

王 格格 WANG Gege

(北京外国語大学日本学研究センター 博士後期課程／国文学研究資料館 外来研究員)
2008年に中国華中師範大学日本語学科を卒業後、京都大学で学んだ。2024年6月から2025年6月までの一年間、国文学研究資料館で外来研究員として研究を行っている。修士課程では、中世和歌を専攻し、現在は奈良時代から平安時代初期の書序に興味があり、書序の文体、及び勅撰三集・『古今和歌集』の序文に伝えられた当時の文芸観を課題としている。これまでに発表した論文として、「「ともしび」考——京極派歌風をめぐって——」(『歴史文化社会論講座紀要』2021年2月)、「永正十三年七月二十九日和漢聯句(三の折) 訳注」(渡邊樹、王格格、宮武衛『国語国文』第91巻第7号、2022年7月)、「『風雅和歌集』の禅宗和歌について——花園院の禅宗主張を窺う——」(『東アジア文明講座紀要』2025年2月)などがある。

栗田 岳 KURITA Gaku

(電気通信大学 准教授)

上智大学文学部国文学科を卒業し、その後、博士学位は、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻で取得した。主な研究分野は上代・中古文学の言語である。個人的には文学・語学の別を意識していないが、傍から見れば、文法研究をしてきたということになるかと思う。研究方法上の特徴は、用例の文脈を読み込み、そこから得られた解釈に基づいて分析を進めていく点にあると思っている。たとえば『紫式部日記』の「才さかし出ではべらむよ」や、紀友則の「しづ心なく花のちるらむ」等について、助動詞ム・ラム・ケムの振る舞いに着目しながら、それらがどのように解される文なのかを論じたことがある。語学的な分析の結果が、作品の理解にも資するものとなるよう、心がけているつもりである。

羅 杰彬 LUO Jiebin

(千葉大学人文公共学府 博士後期課程)

中国の寧波大学を卒業し、学部時代、盛岡大学に一年間交換留学をする。その後、千葉大学の博士前期課程を修了し、現在は博士後期課程に在籍している。研究分野は中世文学で、主に西行の釈教歌について研究している。これまでに、西行の釈教歌に関する論文として、「十楽」「十題十首」「地獄絵」などのテーマを扱ったものを執筆した。

黄 逸松 HUANG Yisong

(東京外国語大学大学院総合国際学研究科国際日本専攻 博士後期課程)

2019 年 7 月中国華東理工大学日本語学科を卒業。2021 年 4 月東京外国語大学大学院総合国際学研究科国際日本専攻博士前期課程に入学し、2023 年修了。その後、同大学の博士後期課程に進学し、中世和歌、特に細川幽斎について研究している。発表論文に「『聞書全集』に見られる細川幽斎の伝統継承の具体像—『詠歌大概抄』からの受容と組み換え—」(『言語・地域文化研究』30 号)、「細川幽斎「玄旨百首」から見る和歌の伝統—同題先例の考察を通して—」(『言語・地域文化研究』31 号)がある。

野中 成淳 NONAKA Jojyun

(京都大学大学院文学研究科 博士後期課程)

早稲田大学文学部、東京大学大学院人文社会系研究科の修士課程を経て、現在は京都大学大学院文学研究科の博士後期課程に在籍している。『平家物語』を中心に、中世の軍記物語の研究をしている。その中でも、現在は、『平家物語』の終わり方にかかわる問題として、灌頂巻の形成過程について研究している。2024 年 8 月の軍記・語り物研究会大会にて大原御幸譚の史実性についての発表を行った。

顧 宇豪 GU Yuhao

(広島大学大学院人間社会科学研究科博士後期課程 修了)

広島大学大学院で修士号と博士号を取得した。大学院在学中は平安中期に生きた陽成院及びその皇子元良親王に関連する歌合・私家集について研究してきた。これまで発表した論文は陽成院一族の和歌作品の表現や周辺人物の考証を中心に論じている。その経験を活かし、視野を広げたいと思い、本発表では、『枕草子』の中国語訳に注目し、中国における日本古典に対する認識を確認したいと考えている。

謝 蘇杭 XIE Suhang

(千葉大学普遍教育センター 非常勤講師)

中国浙江省杭州市出身。2014 年江西科技師範大学薬学部製薬工程専攻卒業。2017 年浙江工商大学東方語言文化学院・日本語言語文学専攻日本歴史文化コースにて修士号取得。2021

年千葉大学人文公共学府歴史学コース博士後期課程修了、博士号取得。研究分野は日本近世史、特に日本近世における本草学およびそれに関連する近世社会の文化的・経済的現象に注目している。博士論文「実学視点下の近世本草学の系譜学的研究」（2021年4月）のほか、「近世中期の本草学における『実学の転回』：平賀源内を中心に」（『思想史研究』2023年3月）や、「近世本草学における儒学思想に対する受容と反発：中国の伝統的世界像の視点から」（『思想史研究』2020年2月）、「近世前期本草学における実学思想の考察：稲生若水と貝原益軒を例に」（『千葉大学人文公共学研究論集』2019年3月）などがある。

王 順鑫 WANG Shunxin

（中国人民大学 博士後期課程／国文学研究資料館 外来研究員）

中国人民大学博士後期課程に在籍。研究分野は、日本近世における中国白話小説の受容研究である。訓訳本、通俗物、読本など、日本近世小説における中国白話小説の受容史を研究している。

エレンチノワ クリスティーナ ERENCHINOVA Kristina

（東京大学総合文化研究科超域文化科学専攻表象文化論コース 博士後期課程）

2016年にロシア・ノボシビルスク国立大学にて東洋学の学士号を、2018年にサンクトペテルブルク大学にて修士号を取得し、2023年には東京大学で修士号を修めた。昭和期の歌舞伎、世話物、そして宇野信夫の作品を研究対象とする。2024年8月、The 21st OHSAWA COLLOQUIUMにて *Enhancing Emotional Depth: Uno Nobuo's Playwriting in "Sonezaki Shinjū"* を発表した。

謝 亜平 XIE Yaping

（筑波大学人文社会科学研究群人文学学位プログラム文学サブプログラム 博士後期課程）

中国の鄭州大学を卒業後、吉林大学に進学した。近代の日本人女性作家による文学に興味を持っている。これまでに、清水紫琴の「移民学園」における部落差別や平民主義について論文を発表した。博士後期課程では、主に南洋・中国・西洋を遍歴した女性作家、森三千代に焦点を絞り、研究を行っている。

劉 東波 LIU Dongbo

（南京大学外国語学部 助理教授）

新潟大学で6年間留学し、修士号（2016年）・博士号（2019年）を取得、専攻は国文学である。日本学術振興会の特別研究員（PD）を経て、現職。研究分野は、日本近代文学、近代の中日交流史などである。2020年に、単著『井上靖とシルクロード』（2020年12月、七月社）を出版した。『『敦煌』の創作から見る井上靖の文学歴史観』（『外国語文研究』第12号、2024年6月）、「宮澤賢治の西域物の原点を遡る」（『日本研究』第90号、2021年12

月)などの論文を発表している。

ザベレジナヤ オリガ ZABEREZHNAIA Olga

(天理大学国際学部 特任准教授)

モスクワ国立大学のアジア・アフリカ諸国大学を卒業し、修士課程をサンクト・ペテルブルグ大学東洋学部で修了した。博士課程はモスクワ大学に戻った。青山学院大学と東京大学での留学経験がある。大学院から日本文学の研究を始め、近代文学(白樺派、宮沢賢治)を中心に研究してきたが、最近は現代文学に興味が向いている。昨年、ロシアの研究会で日本語文学に関する発表を行い、現在は『21世紀の日本』という共著論文の序章と文学についての章に取り組んでいる。

ムティグリナ・スベトラナ MUTYGULLINA Svetlana

(青山学院大学大学院文学研究科日本文学・日本語学科 博士後期課程)

ロシア出身、MEXT 奨学金受賞者。現在、金子みすゞの童謡およびその翻訳方法について研究を進めている。2023年に『緑岡詞林』に「金子みすゞ童謡の露訳における翻訳方法——詩的翻訳における問題とその解決方法をめぐって」を投稿し、2024年12月8日に開催された全国大学国語国文学会にて「金子みすゞの童謡とその翻訳——言語的分析——」について発表を行った。

倉地 智哉 KURACHI Tomoya

(名古屋大学大学院人文学研究科日本文化学講座 博士前期課程)

2024年4月、名古屋大学大学院人文学研究科日本文化学講座博士前期課程入学。日本近現代文学・在日朝鮮人文学専攻。本発表に関わる資料紹介に「安部ヨリミに関する基礎的研究——童話「太郎さんと鼻」他一編と書簡二通紹介及び解題」(『解釈』2025年2月)、口頭発表に「東京女子高等師範学校と〈赤瀾会〉——山口小静と井村ヨリミの社会主義運動を中心に」(第10回日韓学術交流会、2025年2月11日)、論文は『文藝空間』より近刊。

刑 亜南 XING Yanan

(中山大学外国語学院日本語学科 講師)

東京大学大学院人文社会系研究科博士号(文学)を取得後、同研究科現代文芸論研究室教務補佐を経て、現職。研究分野は日本近現代文学、多和田葉子の作品研究。これまでに発表した論文としては、「翻訳者の変身——多和田葉子『文字移植』論」(現代文芸論研究室論集『れにくさ』第13号、2023年3月)、「視線と変身——多和田葉子『かかとを失くして』論」(『跨境・日本語文学研究』第17号、東アジアと同時代日本語文学フォーラム、高麗大学校日本研究センター(編)、2023年12月)などがある。

■インフォメーション・セッション発表■

五木田 星南 GOKITA Sena

（国際基督教大学大学院アーツ・サイエンス研究科比較文化専攻日本文化研究専修 博士前期課程）

国際基督教大学大学院アーツ・サイエンス研究科比較文化専攻日本文化研究専修博士前期課程に在籍。研究分野は日本近現代文学、日本地域研究。特に文学者同士の交流に深い関心がある。国際基督教大学の卒業論文では、梶井基次郎の死にまつわる三好達治の四行詩から、三好の心中における梶井の死の受容について分析した。修士論文では、ソシアビリテ論等を用いながら、多くの文学者が集まった東京のカフェを対象にして研究している。

杉本 和江 SUGIMOTO Kazue

（古美術修理 すぎもと 個人事業の専従）

早稲田大学を卒業し、近世の鑄造技術、庶民信仰、そして鑄物製品が社会にもたらす影響について研究を行っている。これまでに発表した論文には「鑄形考」（アジア鑄造技術史学会誌）があり、また共著として『江戸大仏』（三船温尚・杉本和江、2024年7月、八木書店）がある。

第48 回国際日本文学研究集会

開催日：令和7(2025)年5月10日(土)～5月11日(日)

会 場：国文学研究資料館大会議室及びオンライン (Zoom ミーティング及び YouTube ライブ配信)

※ハイブリッド開催

主 催：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館

【プログラム一覧】

5月10日(土)

13:00～13:10 開会挨拶 渡部 泰明 (国文学研究資料館 館長)

総合司会 ダヴァン ディディエ (国文学研究資料館 教授)

研究発表

第1セッション

13:10～13:40 奈良・平安初期の書序と進書表について
—「古事記序」再論—
王 格格 (オウ カクカク／北京外国語大学日本学研究センター 博士後期課程
国文学研究資料館 外来研究員)

13:45～14:15 文の解釈と作品の解釈
—『伊勢物語』「さるさがないきえびす心を見てはいかがはせむは」考—
栗田 岳 (クリタ ガク／電気通信大学 准教授)

休憩 10 分 (14:15～14:25)

第2セッション

14:25～14:55 西行の釈教歌における自然と仏教的解釈
——法華経二十八品歌の「方便品」を中心に
羅 杰彬 (ラ ケツヒン／千葉大学人文公共学府 博士後期課程)

15:00～15:30 細川幽斎『九州道の記』における地名の詠み方—実景と伝統の調和—
黄 逸松 (コウ イツショウ／東京外国語大学大学院総合国際学研究科
国際日本専攻 博士後期課程)

15:35～16:05 『平家物語』灌頂巻前半部の形成過程
——結節点としての「女院出家」「大原入」——
野中 成淳 (ノナカ ジョウジュン／京都大学大学院文学研究科 博士後期課程)

休憩 10 分 (16:05～16:15)

第3セッション

16:15～16:45 『枕草子』周作人訳と林文月訳との比較
——「頭弁の、職にまゐりたまひて」段前半部を中心に——
顧 宇豪（コ ウゴウ／広島大学大学院人間社会科学研究科博士後期課程 修了）

16:50～17:20 江戸時代における詩経名物学の展開—京都本草学派を中心に—
謝 蘇杭（シャ ソコウ／千葉大学普遍教育センター 非常勤講師）

17:20～17:30 インフォメーション・セッション

・1900-1920年代の東京における文学者とカフェ
五木田 星南（ゴキタ セナ／国際基督教大学大学院アーツ・サイエンス研究科比較文化専攻
日本文化研究専修 博士前期課程）

・『江戸六地蔵建立之略縁起』の分析（類本情報のお願い）
杉本 和江（スギモト カズエ／古美術修理 すぎもと 個人事業の専従）

5月11日（日） 総合司会 山本 和明（国文学研究資料館 教授）

第4セッション

10:35～11:05 『通俗三国志』章題の典拠と方法 —幸田露伴の方法への復帰と再検討—
王 順鑫（オウ ジュンキン／中国人民大学 博士後期課程
国文学研究資料館 外来研究員）

11:10～11:40 デビュー作『ひと夜』から始まる革新：宇野信夫と一幕物の世界
Erenchinova Kristina（エレンチノワ クリスティーナ／東京大学総合文化研究
科超域文化科学専攻表象文化論コース 博士後期課程）

11:45～12:15 帝国の統治恐慌と熱帯病について—森三千代の「南溟」を中心に—
謝 亜平（シャ アヘイ／筑波大学人文社会科学研究群人文学学位プログラム
博士後期課程）

休憩 90 分(昼食・交流会)
(12:15～13:45)

第5セッション

13:45～14:15 松岡譲『敦煌物語』における「大谷ミッション」の表象
——未公開草稿を手掛かりに
劉 東波（リュウ トウハ／南京大学外国語学部 助理教授）

14:20～14:50 日本語と中国語の間
—楊逸、李琴峰、横山悠太の「日本語文学」におけるバイリンガル性—

Zaberezhnaia Olga (ザベレジナヤ オリガ／天理大学国際学部 特任准教授)

- 14:55～15:25 「童謡」の概念再考 “Childlike, though Never Childish”
——金子みすゞの「童謡」を手がかりに——
Mutygulina Svetlana (ムティグリナ スベトラーナ／青山学院大学大学院
文学研究科日本文学・日本語学科 博士後期課程)

休憩 20 分 (15:25～15:45)

第6セッション

- 15:45～16:15 安部ヨリミの創作活動とその生涯に関する伝記的研究
——プロレタリア作家から歌人への変貌——
倉地 智哉 (クラチ トモヤ／名古屋大学大学院人文学研究科日本文化学講座
博士前期課程)
- 16:20～16:50 多和田葉子「ペルソナ」における遊歩者の表象
刑 亜南 (ケイ アナン／中山大学外国語学院日本語学科講師)
- 16:50～ 閉会挨拶 新美 哲彦 (国際日本文学研究集会専門部会 部会長)